



生徒が参加したユニット型研修会（厚狭中学校）

厚狭中学校では、3年生の代表生徒が研究授業を参観した後、学校運営協議会委員と教員による研究協議会にも参加しました。グループ協議では、生徒は物おじせずにはっきりと自分の考えを伝え、グループのまとめも堂々と発表しました。これは、生徒の生の声を聞き生徒と一緒に授業を創っていくという学校の方針の下、まずはやってみようと公開されたものです。市内では初の試みです。教員は、生徒の意見が今後の授業づくりの参考になると手ごたえを感じたようでした。地域の方も生徒の力に感心しておられました。



合同学習フェスタ（有帆小学校）

学校と地域交流センターが学習の成果を合同で発表するフェスタが、有帆小学校体育館で開催されました。児童は、音楽や総合的な学習の時間などで学んだことを披露しました。参加された多くの保護者や地域の方が、子どもたちの堂々とした演技や生涯学習クラブの発表に大きな拍手を送り感動しておられました。また、多目的ホールや通路で生涯学習クラブの作品展示や育友会の遊休品バザーなども行われました。学校と地域が一体となって交流し合うフェスタは、有帆地域の特色ある取組であり、とても盛り上がりました。



認知症サポーター養成講座（本山小学校）

本山小学校の4年生が、市地域包括支援センター主催の同講座を受講しました。祖母が孫に、今日は学校に行かんでええんかと尋ねると、孫は、今日は日曜日だから行かんでええのと答えるやりとりを何度も繰り返す寸劇をおもしろそうに見ていた児童は、認知症のことを正しく理解すること、認知症の人の不安な気持ちを分かってあげて上手に関わることが大切だということを学びました。振り返りで、認知症の人に出合ったら、ゆっくり分かりやすく正面から話し、優しく接しようと思ったという感想が聞かれました。

